

令和6年度 学校教育自己診断 結果について（報告）

1 実施について

- (1) 実施時期 令和6年12月2日～12月20日
- (2) 実施方法 Google form にて回答、集計
- (3) 回答項目 A：よくあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない
D：あてはまらない E：わからない の5項目
- (4) 回答数（回収率）

学部	保護者	教職員	生徒
小学部	42名（67.7%）	24名（77.4%）	
中学部	53名（58.2%）	30名（81.1%）	10名 ※ 班
高等部	70名（53.8%）	44名（86.3%）	30名 ※C・D班
全学部	165名（58.3%）	102名（79.7%） 担任外含む	40名

- (5) 分析方法 回答で肯定的回答を（Aよくあてはまる・Bあてはまる）、否定的回答を（Cあまりあてはまらない・Dあてはまらない）として分析した。

2 概要について

今年度、初めてすべてを対象に Google form によるアンケートで実施した。アンケートの項目については府教育庁が提示している項目や学校経営計画にあうように設定し、質問の意味が伝わりやすくなるように今年度も診断内容（質問）の文言等を精選して実施した。

回収率については保護者が58.3%（前年度80.1%）と大きく低下した。Google Form での実施が大きな要因と考えられる。安心メールでリマインドメールを毎週末に URL とともに送付するなど周知の徹底を図ったが前年度より低い回収率となった。また、教職員と生徒については前年度から Google Form での実施を行ってきたがこちらも回収率が低下した。次年度は診断結果の精度や有意性を高めるためにも回収方法を再検討する必要がある。

3 結果と分析

① 保護者

今回のアンケートにおいて診断内容全項目の平均で84%以上の肯定的回答を得られたことは評価できるが、否定的回答やわからないといった回答が意味することを考察し、学校教育の改善や向上をさらに進めていきたい。

○前年度より肯定的回答（Aよくあてはまる・Bあてはまる）が大きく向上した項目

設問 24 のホームページについては肯定的評価が 81.2%、否定的評価が 11.5%と前年度の肯定的評価 45.8%、否定的評価 48.5%から大きく向上した。学校ブログの更新回数が増えたことが大きな要因と考えられるが次年度は見やすさ、読みやすさも意識して、さまざまな学校情報を発信していきたい。

○肯定的回答（Aよくあてはまる・Bあてはまる）が 80.0%未満の項目

質問（診断内容）24 項目中 5 項目において 80.0%未満の肯定的回答となっている。ただ、どの項目もわからない・無記述（E・無）がほぼ 10.0%以上となっている。

項目	診断内容	分析・見解
2	学校に行くことが楽しい	・72.7%肯定的、11.5%否定的、15.2%わからない・無記述 否定的な回答が昨年の 8.7%と比較すると少し増加した。もう一度学校教育活動を見直す必要がある。
12	児童会・生徒会	・71.5%肯定的、4.8%否定的、23.6%わからない・無記述 否定的な回答が少なく、どのような活動をしているかわからないと感じている保護者が多いと考えられる。次年度以降も活動の様子を積極的にホームページなど有効活用しながら情報提供・発信をしていきたい。
13	いじめに関するもの	・59.4%肯定的、4.2%否定的、36.4%わからない・無記述 肯定的評価が低い一方で「わからない」の回答割合が高い。いじめ事案が実際に起こっていない場合に学校がどのような対応をとってくれるのかわからないという面があるかもしれない。保護者に安心していただけるよう、今後も情報を発信していきたい。
13	交流・地域連携	小中・61.5%肯定的、8.8%否定的、29.7%わからない・無記述 今年度も積極的に居住地校交流を進めていたが、回数や時間が少なく保護者が実感できていないことが考えられる。 高・72.6%肯定的、9.6%否定的、17.8%わからない・無記述 取り組み内容などを理解いただけるように地域との連携やキャリア教育について積極的に発信していきたい。
22	施設設備	・71.2%肯定的、9.6%否定的、19.2%わからない・無記述 空調設備の改修や校舎内のスロープ設置、バリアフリー工事等順次進めているが、まだまだ改善できていない場所が多くあるためにこのような回答結果を得たと考えている。

② 教職員

教職員のアンケートの回答結果を見ると全 27 項目で平均して肯定的回答は 74.4%と前年度の 79.0%から少し低い結果であった。15 項目で 80.0%以上の肯定的回答を得ているが、14 項目で 10.0%以上の否定的回答、そのうち 7 項目において 20.0%以上の否定的回答がある結果となった。今年度の回収率が 79.7%と大きく下がったため、回収方法については保護者同様に次年度の検討課題といえる。

○否定的回答（C・D）20%以上の項目

項目	診断内容	分析・見解
8	学校行事	・67.6%肯定的、25.5%否定的

		今年度は運動会、東淀川まつりの形態を変更したことも要因としてあげられる。児童生徒にとって魅力あるものにできるよう検討していくことが課題である。
13	教職員の業務分担	・ 37.3%肯定的、52.9%否定的 否定的回答が肯定的回答を大きく上回った。業務量が多い、時間がないと感じている教職員が多いと推測される。次年度は大阪府が示す働き方改革にむけた取組みを全教職員に意識づけをしていきたい。
15	各分掌・学部や学年間の円滑な運営	・ 63.7%肯定的、28.4%否定的 前年度より否定的回答は減少したが、設問 13 と同様に時間がないなど理由が考えられる。また、働き方の多様化で、担任間で児童生徒が下校後に話し合う時間が短いと感じていることも一因としてあげられる。
19	校長のリーダーシップ	・ 44.1%肯定的回答、39.2%否定的回答 学校経営計画の作成にあたり、全教職員に周知し、意見を反映できるよう教職員から意見を募る取組みなどを行っているが、否定的回答が多い結果となった。次年度も継続して取り組んでいく。
20	学校運営への意見反映	・ 21.6%肯定的回答、61.8%否定的回答 前年度より肯定的回答が減少し、否定的回答が増加した。学校運営に関しても自分たちの意見が反映されていないと感じている教職員が多い。
23	施設・設備の改善	・ 43.1%肯定的回答、52.0%否定的回答 肯定的回答より否定的回答が上回った。古い校舎を活用して開校し、10年になるが今年度も多くの場所で修繕や改修が必要な箇所があった。次年度以降も安全管理、教育環境の整備のために修繕や改修を継続していかなければならない。
25	各教科の備品や教材教具について	・ 36.3%肯定的回答、55.9%否定的回答 前年度と割合はほぼ変わらないが、今年度も備品や教材教具の数や新しさで不満を感じている教職員が多いと推測される。

③ 中学部 班 高等部 C・D班生徒

全 16 項目の質問で平均して肯定的回答は 81.2%であった。10.0%以上の否定的回答は 9 項目あり、うち 3 項目は 20.0%以上の否定的回答であった。わからない・無記入で 10.0%以上の回答は 4 項目あった。

ただ、回答数が 40 人と昨年度に比べ少なく、有意性にかけるため回答者数を増やすことが次年度の課題である。その中でも設問 9 及び 11 に関して否定的回答が前年度よりも 10%以上も増加しており、担任または担任以外の教職員へ気軽に相談しにくいと感じている傾向がうかがえる。安全に安心して学校生活を児童生徒が送れるよう環境づくりの見直しをしていきたい。